

学習フィードバックシート

プロジェクト名：ロボット型ユーザインタラクションの実用化-「未来大発の店員ロボット」をハードウェアから開発する - グループ名： C グループ 担当教員名：三上貞芳、鈴木昭二、高橋信行 学籍番号 b1018199 氏名 小山内 駿輔

1. 自己評価

評価項目	自己評価 (点数/満点)	評価基準
出席	10 /10	無断欠席回数： ・ 0回(10点) ・ 1回(5点) ・ 2回(0点)
週報	9 /10	標準点：7点 ・ すべて提出したか？ 不備はないか？ ・ 提出期限は守られているか？ ・ 報告事項の内容は十分か？
グループ報告書	8 /10	標準点：7点 ・ 誤字、脱字はないか？ 様式、体裁は整っているか？ ・ 十分な記述量があるか？ ・ 内容に矛盾がなく、再現性や合理性があるか？ ・ 客観的な記述がされているか？
発表会	9 /10	標準点：7点 ・ ポスターはわかりやすいか？ ・ 聴講者に理解してもらえたか？ ・ 説明方法は適切であったか？
外部評価	7 /10	標準点：7点 ・ 発表会やアンケートを通じた外部からの意見の評価 ・ 検討を十分行ったか？ ・ 外部意見を課題解決策に反映することができたか？ ・ 自分勝手な課題解決策になっていないか？
積極性・協調性	9 /10	標準点：7点 ・ 自ら積極的に課題を設定したか？ ・ 自ら積極的に課題の解決策を考案したか？ ・ 自ら積極的に課題を解決したか？ ・ 課題設定・解決のために議論を十分行ったか？ ・ メンバーとお互いに協力し合ったか？
計画性	15 /20	標準14点 ・ 適切な作業計画を立てることができたか？ ・ 適切な作業分担を行えたか？ ・ 計画通りに作業を進めることができたか？ ・ 必要に応じて柔軟に計画を修正できたか？
成果	16 /20	標準14点 ・ プロジェクト遂行に必要な知識・技術を獲得できたか ・ プロジェクトへの貢献は十分であったか ・ 自分たちが納得できる成果が得られたか？
合計点	83 /100	

(注)週報の不備を、システム情報科学実習のホームページ→週報の提出確認のページから確認すること。

2.理由

私は後期の活動が開始してからも一度も欠席することなく、必ず出席しているので出席は10点であると考え。週報は全て提出し、内容もきちんと網羅していると考え、後期にも一度遅れて提出してしまったことがあるため、9点だと考える。グループ報告書に関しては、十分な記述を行い、自身が行ってきた内容を客観的に記述することが出来たと考えるため、8点であると考え。発表会に関しては前期に引き続き、全体のスライドの作成や読み込みに加えて自身のグループのスライド作成およびセリフの読み込みを行うとともに、動画作成や提出を行い成果発表会の成功に大きく貢献したと考える。成果発表会の全体スライドやセリフの読み込みなどは私が積極的に行ったが、他プロジェクトの発表と比較すると分かりやすさに欠けると判断し、9点が妥当であると考え。外部評価に関しては、中間発表時にいただいた意見やアドバイスをある程度参考に課題解決に向けて製作を行った。しかし、最終成果発表会で新たな意見や指摘をいただいた箇所があった。また、プロジェクト活動期間内に実証実験を行うことが出来なかったため、客観的なフィードバックを得ることが出来なかった。そのため、7点が妥当であると考え。協調性や積極性については、積極的に工房に足を運んでプロジェクト活動時間外にも意欲的に活動した。また、他のグループメンバーの仕事を手伝い、製作活動に大きく貢献したと考える。しかし、情報伝達を円滑に行うことが出来なかったため、9点であると考え。計画性については、自ら割り当てられた仕事を週ごとにどこまで達成するかを設定し、できる限り設定した目標に向けて活動できたため、15点が妥当であると考え。成果としては、主にハード側の製作や機構の設定などを担当し、最終的に機体の第一号を完成させることが出来たとともに、3DCADやレーザーカッター、3Dプリンタ、Raspberry Piに関する多くの新規技術を習得することが出来た。しかし、製作した機体に関しては課題点も少々残ってしまったため、16点が妥当だと考える。以上を鑑みて合計し、83点が自身の妥当な点数であると考え。

3. 共同作業者によるコメント

コメンター氏名：田澤 卓也

グループのロボットの筐体が後期早い段階で目途をつけてくれたおかげで、後半ロボットの具体的なロボットの動作を確かめながらジェスチャーの開発に取り組むことができました。こちらからジェスチャーの試作のなど前期夏季休暇中に投げれば筐体の設計などやりやすかったと思うのが申し訳ないです。グループのロボット開発の先頭で具体的な作業に一番取り組んでくれたと思います。

サイン 田澤卓也.

コメンター氏名：普久原 朝基

筐体の作成担当でしたが3dモデリングの学習や実際のモデリング、そして3dプリントと一番作業量が多く時間も拘束され大変だったと思います。ですがしっかりと作業をこなしてくれました。またRaspberry Piの設定なども行なってくれて本当に助かりました。グループの中で一番活躍した人だと思います。

サイン 普久原朝基

3. 担当教員によるコメント

教員サイン 三上貞芳 鈴木昭二 高橋信行